

# パーキンソン病の話:あれこれ

## 前屈姿勢:その①

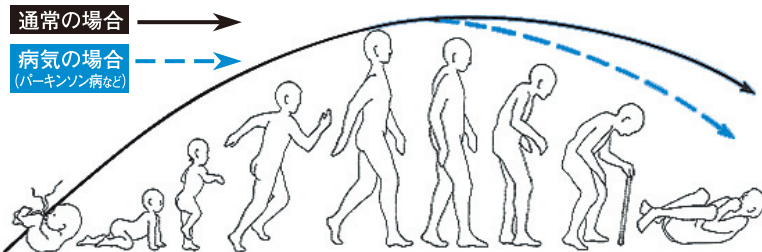


図1 ヒトの生涯と姿勢 (Principle of Neurologyより)

パーキンソン病の患者には、しばしば前かがみの人が見られます。図1には正常な人の一生における姿勢が描かれていますが、この姿勢異常が早く現れる病気の一つがパーキンソン病と理解してよいでしょう。

### 病気が進行するほど割合が高まる

図2には、典型的な前屈症が描かれています。パーキンソン病による前屈症は、あお向けに寝そべると背中がまっすぐに伸びることが特徴で、欧米では100年以上前からこの症状が記載されています。明らかに姿勢異常だと判断できるのは約10%程度です。以前、

私達のグループが全国規模で1000人以上の患者を調べた時にも同様の結果でしたが、病気が進行して重症の人ほど前かがみの割合が高くなるのが分かりました。また、背骨の圧迫骨折をする前かがみが悪化することも分かっています。

### 筋肉のバランス崩れ 重心取るためかむ

前屈症の原因は詳しくは分かっていませんが、ジストニアという



図2 パーキンソン病の前屈症

筋肉の緊張のバランスが崩れた症状だと理解されています。患者さんは前屈姿勢をとりませんが、体の重心は体の後方に移動してしまふため、体の防御として自然に前かがみになるとも考えられます。

まれにパーキンソン病の治療薬が原因で前屈症が起きることも報告されています。この場合は急速に前かがみになります。薬による前屈症の場合は、薬を変更すると改善されます。

徐々に前屈する場合には薬によって起きたとはいえません。パーキンソン病の自然経過だと理解した方がよいでしょう。